



題字・松尾金蔵書

発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒185-0034

東京都国分寺市光町2-14-85

(有)パルティール内

FAX 042-573-5060

東京修猷会ホームページアドレス

http://www.shuyu.gr.jp



右 題名「羯鼓」
版画手彩色
背景の緑色は金粉を薬品処理で緑青に黒一色版画

左 題名「羯鼓」
銅の板を酸化銅・硫化銅・緑青等に
変化させ他金属・ガラス等を焼きつけ
の具は使用せず背景で銀河の形に文字
が見えるのは「仏所行讃」という釈迦
の物語が経文になったものを彫金してい
る。

矢野 眞 作



「温かい心を取り戻そう」



東京修猷会会長
藤吉 敏生
(昭和26年卒)

館友の皆様、明けまして、おめでとうございます。昨年六月の定時総会で、野上三男前会長のあとを引き継いで東京修猷会会長に就任してから初めての新年です。いま、改めて責任の重さを痛感しているところです。この一年、会の発展のために微力ながら全力をつくしますので、よろしくご支援のほどお願い致します。

うな、そんな予感さえる世の中のように思えるのは私だけでしょいか。二〇〇一年の昨年は残念ながら政治、経済、社会どれをとっても、そのことが決して誇張ではないほど我々は多くの苦しい体験をしました。今年こそは国を挙げて、明るい未来への第一歩としたいものです。

私は平成九年の東京修猷会会報で「今の日本は政治、経済、社会、教育どれをとっても戦後五十年続いたシステムが通用しなくなっている。これを早く変革しなければ、いまの長期不況の中での閉塞感はいつまでも続く」と指摘しましたが、五年たった今日、残念ながらその改革のスピードは遅く、エネルギーに点火することなく時間だけが過ぎ去っています。

昨年四月に「構造改革なくして景気の回復なし」の政治的公約を掲げ、登場した小泉首相ですが、政治も行政も改革の大筋は見えてはいるものの、いざ具体的な実行となるといまだしの感があります。小泉首相に国民が驚異的ともいえる高い支持を与えたのは、強いリーダーシップを発揮して思い切った構造改革をやってほしいと願ったからだと思ひます。

いま、わが国の経済社会は出口が見えない長いトンネルの中にあります。ITを中心とした情報社会の進展を期待しても、現在も、将来も決してバラ色の社会が浮かんで

さて、混沌の時代、わが国は今世紀どのような道を進もうとしているのでしょうか。国の指導者が一つ舵取りを誤れば、引き返す道さえ見つかからない迷路に入ってしまう

はきません。同時テロが追い打ちをかけた現下の経済状況は当分の間、低迷が続くでしょうし、失業者の増加も懸念されています。毎日の社会ニュースは人々の心を揺さぶるものばかりです。こうした不安な時代に求められるのは、心の温かい人間づくりではないでしょうか。いたずらに権利だけを主張して、義務を果たさない日本人が多くなったことに責任を感じる一人です。

あの第二次世界大戦の廃墟から立ち上がり、見事な国を作り上げた日本人の一体感とエネルギーはどこへ行ったのか、と思う昨今です。昨年九月、同時テロの攻撃を受けた米国が結束して、相手に立ち向かう姿は決断力ある指導者とそれを信頼する人達によって形づくられることを示唆しているようです。現在のこのような混沌の時代にはカリスマ的な強力なリーダーが必要なんではないかと考えます。このことは政界、経済界を問わず共通の問題としてとらえています。

二十一世紀という新しい世紀は、最初の一年を振り返って、何となく暗黒時代の到来を予感しがちですが、私は決してそうは思いません。これまでの歴史を回顧すれば、それが歴然としています。

私はいま、歴史の転換点に立たされ、修猷館で学んだことやその同窓生の心に胸打たれる日々があることに満足感を憶えます。修猷館という学校の卒業生というだけで、利害を抜きにして心に安堵感を与えます。これが心の郷里であり、温かい心を作り出すのではないかと考えています。東京修猷会の皆さんが力を合わせて、「えにし」を大切にしながら暖かな心づくりの輪を拡げたいものです。

東京修猷会は六月総会とはもとより、毎月開催される二木会などを通じて、この一年、館友の輪を大きくしたいと考えています。とくに、伝統と歴史ある二木会は間もなく五〇〇回という大きな節目を迎えます。これを機に、二木会の活性化と充実にも力を注ぎたいと心に誓っています。

東京修猷会 〇〇二年活動スケジュール

(二木会第二編目 6時から食事)
7時から講演

1月 10日 二木会 於：学士会館

2月 14日 二木会 於：学士会館

3月 14日 二木会 於：学士会館

3月29日(金) 常任幹事会

(決算見直し、総会内容確定、役員改選等)

4月 11日 二木会 (新人歓迎会)

5月 9日 二木会 於：学士会館

6月 7日(金) 総会 於：経団連会館

18:00時から 幹事学年は昭和五十二年卒

7月 11日 二木会 於：学士会館

9月 12日 二木会 於：学士会館

10月 10日 二木会 於：学士会館

(総会報告、来年度総会計画等)

ゴルフコンペ

11月 14日 二木会 於：学士会館

12月 12日 忘年会

この他、執行部としては、総会準備のための、幹事学年との打ち合わせ

会報編集会議、他の同窓会支部総会への出席等を随時行なっています。

事務局移転のお知らせ

本年 平成十四年より

事務局が変更されます。

新しい事務局は

〒185-0034 東京都国分寺市

光町二一四一八五

(有)パルティール内

よりよろしくお願い致します。

カラスを偲びながら

昭和二十六年卒 矢野 眞

一昨年四月田園の美術館での個展初日、女性の声で「福岡の田中ですが」と電話があった。福岡にそんな知り合いがあったかなと思っていたらカラスの奥さんだとわかった。とたんに待ってましたとばかり、カラスの昔と全然変わらない元気な声で「よかとこで展覧会ば企画してもらってよかったのう」とお祝いの言葉を頂いた。

もう直立不動立ち上がったまま、受話器を手に緊張のあまりペコペコお辞儀をしていたようだった。「なかなか博多までは行けず、展覧会の案内状を送りするくらいが関の山で、そのうち現状をお手紙でも」と弁明の言葉もシドロモドロ。

「もう目が見えんことなっしもうたけん手紙はいらんばい。電話ばよこせ」との話。散々お世話になっていたがご挨拶にもお見舞いにも行けず、博多には足を向けて眠れない状態でした。丁度その後「カラス百歳記念展」の企画が郵送されてきたので、参加作品を二点お送りし、期間中に少し振りでもあったので、そのときに無理してでも出掛けようと思っていた。

さてその記念展と私の手術が重なってしまった。記念展最終日に奥様が車椅子を押してカラスが会場に見えたようで、ビデオ

二度目の受験の時、私の下宿へ関西にいた頃の親友が仕事に失敗し夜逃げをしてきた。久し振りであったし可哀想でもあったので、一生懸命貯めた受験料を二人で飲んでしまった。考えてみればわずかな金額だったのに、当時の私にはどうして、その後都合できなかった。決してその友達への責任ではない。教授たちからはもう二度と来るなと一喝されてしまった。

私がいままで無所属で個展主体にやってこれたのはカラスの影響でした。「本当に絵ば描きたかなら、公募展など出さんじやなか。画商とも付き合うと口くなことあなかばい。それでもちゅうなら親の遺産でもなかと絵なんて描けんばい」といわれていた。またそういう時代でもあった。親の遺産などあるはずもなく、それでもということに文字通り大変な生活に突入してしまつた。愚のいい家出。たとえ乞食になつても…。

芸大受験一回目失敗。カラスから教授・助教授を紹介されていた。当時家出した餓鬼が生き延びけるような東京ではなかった。またそれほど器用な世の中を渡っていく自信もなかったのだが、ともかく同窓の友人たちには絶対迷惑を掛けたくない「なぜかカラスにご縁があります」とその頃お手紙したら喜んで頂いたものだ。

大漫会の高橋君からカラスの計報を受け、美術部で一年先輩の秋吉元さんからの電話、同輩の進太一君へ連絡。不在。同様に吉岡孝二君。中村道生君から…と一日電話が鳴り止まず、延々とカラスの話をしていく。

以前からの予定で埼玉新聞主催、「さいたま市」での個展の打合せが重なっており遂に葬儀にも伺えない始末。

仏画を描き始

めた最初のシリーズ「千手観音と二十八部衆」のうち「迦楼羅王」、インドでは「ガルーダ」、日本では「烏天狗」後に「天狗」をリトグラフで作っていたのをアトリエの入口に掛けていた。何の気なしに見つめていたら「ああカラス!!」そうだこのとき意識はしていなかったが、俺はカラスを描いていたんだ、と気が付き更につくづく見ていたら「この絵は田中先生にそっくりだ、まるでモデルにしたようだ」と見えてきたのです。

画家であつた先生の御仏前に私ごときの絵を飾って頂くなんて、とんでもないおこがましいこととも思つたのですが、格別可愛がって頂いたと思ひ込み、一番尊敬していた先生だからと勝手にきめつけ、先生も奥様もお許し願えるだろうと厚かましくもお送りしてしまつた。

ちゃんとした追悼の文章を書くこととしていたのに駄目でした。生前にお伝えすべきであつたお詫びの気持ちも御札の気持ちもついそのままになつてしまひ、満腔の後悔の念と、ただただ安らかに眠って頂きたいと願うのみです。

現在の私があるのは、先生のおかげ以外のなにものでもありません。本当に有難うございました。合掌



カラスを偲びながら

矢野 眞 (S26卒 仏画家・無所属)
『百八人の飛天』より
著作
「絵で拝む日蓮聖人大曼荼羅」
詩画集
渡澤道子詩「千手観音と二十八部衆」他多数
作品が載ってるHP
http://www.da-chiba.com/2001/bachicom01/art/ano/02.html
日本テレビ 宗教の時間 (15分番組)
「矢野眞」/1990年12月
「仏教の時間」矢野眞/2000年4月

福岡アジア美術館を知っていますか?



博多区下川端の博多パレイ
ン七・八階にある「福岡アジア美術館」を訪ねたことがありますか? 広範で質の高いアジアの近現代美術コレクションを約一〇〇〇点所蔵し、「交流型美術館」というユニークな特徴をもっています。アジア各国から美術作家を福岡に三ヶ月招き、滞在中の製作過程を公開し、ワークショップ、パフォーマンスなどを行い、多くの人が作家と直接交流し、アジアの「いま」を感じる機会を提供します。二〇〇一年はフィリピン、ラオス、ベトナム、インドネシアの作家と台湾、モンゴルの研究者を招きました。

スゲジュール
マドンナ物語
12/15~1/26

○東西女性表現の五〇〇年
アジアの近現代美術4
1/27~3/12

○アジアの近現代美術4
1/27~3/12

○ベトナム・モダン
1/10~3/12

中世博多に思いを馳せて

北嶋雄二郎(昭和四十三年卒)

母校の建替工事も着々と進み、一部完成した校舎は、すでに修猷生諸君が使用している。なお、福岡県立高校として初めての冷暖房完備となつている。また、昨年も九月十五日に大運動会が行われ、青、赤、黄、白の各プロックの応援歌が伝統の人文文字とともに四つのスタンドに鳴り響き、騎馬戦等の熱戦も含め、修猷健在なりとの感、大であった。さて、かつては、この母校から北に進めば、たやすく砂浜に出ることができたが、現在は、シーサイド百道という近未来都市が整然と形成され、高層マンション群、新産業のビル群、博物館やホークスの本拠地福岡ドーム等が視野に飛び込んでくる。さらにその先には、人工海浜が広がり、美しい博多湾の眺望を背景に市民の憩いの場となつていく。そして、その最も西側、室見川の河口を見下ろせ、能古島が目前に迫るすばらしい景観の地に中世博多の街並が再現され、昨年、約二五〇日間にわたる「中世博多展」が開催された。

この日本最古の商都で七〇〇年前、壮大なドラマが展開された。即ち一二七四年(文永十一年)の元軍が九〇〇隻の軍船で博多湾に襲来、当時五万人を超え大都会であった博多の町を焦土としたのは、大河ドラマ「北条時宗」で見られた通りである。一二八一年(弘安四年)には十四万人、四四〇〇隻の大軍が再襲来、兩年ともに玄南の海は、常磐の松の百道原は、元の大軍で埋め尽くされ、まさに日本国が滅亡の危機に瀕したのである。

ところで、北条時宗といえば、忘れられないことがある。山崎広太郎福岡市長(昭和三十五年卒)が、福岡ロケに関しNHK本社で海老沢会長と会見した時、「当時の博多の町人がどこに目を向け、元の襲来をどの様に受け止めていたのかもテーマにして欲しい。」と注文を出し、会長がこれを受けて、謝国明という人物を探し出された。この見事な対応は、会長にとって博多がNHK社員としてスタートを切つ

た思い出の地であることのみが理由ではあるまい。この街が、市民の活力に支えられて発展してきたということを会長自身がこの地での生活や仕事、山等等の祭により実感しておられ、この申し出の意味を直ちに理解されたからであろう。

今日も、博多港は、日本一の旅客数を誇り、コンテナの取扱高も急増する国際港として、福岡空港も毎年二〇〇〇万もの人々が利用する基幹空港としてともに栄えている。中世の博多も、外国人貿易商や禅僧が往来し、国内外の物が溢れる日本一の国際都市であった。七〇〇年後も自由に世界に羽ばたくことができる街、宇宙的平和に貢献できる都市で有り続ける礎を山崎市政のもとで築いていくために、今後とも東京修猷会の皆様のご尽力を。(福岡市役所勤務)



NHK「時宗」ロケ地

○アジア現代彫刻展
1/3~1/8

○古代エジプト展
2/2~3/5

○福岡アジア美術
トリエンナーレ二〇〇二
(3年毎に) 3/21~6/23

休館日: 毎週水曜 12月26日
1月1日
(1月2日から開館)

ホームページ
faucity.fukuoka.jp



二〇〇二年 福岡のおもな行事

1月3日 宮崎宮 玉せせり

8~11日 十日恵比寿(東公園)

アジアの近現代美術展 福岡アジア美術館

アジア現代彫刻展

2月3日 節分祭(鶴岡神社・東長寺・香椎宮等)

古代エジプト展 福岡アジア美術館

太宰府観梅

福岡けき通りレディスロードレース(5km)

3月 アジア美術館第2回トリエンナーレ

4月 曲水の宴 大宰府天満宮

海の中道はるかぜマラソン (ハーフ、10km・5km・3km)

5月3~5日 博多どんたく港祭

6月 分散自律ロボットシステムに関する国際会議 (理化学研究所 <http://celultriken.go.jp/>)

ロボカップ二〇〇二福岡・釜山 福岡ドーム (ロボットによるサッカー試合)

7月1~15日 博多山笠(13日午後市役所前で集団山笠、15日早朝に追い山)

8月1日 大濠花火大会

9月12~18日 宮崎宮 放生会

13~23日 アジアフォーカス福岡映画祭(アジア映画上映) アジアンズ(子ども会議)

10月上旬 中州祭(女みこし・3日間)

上旬 福岡シティマラソン(ハーフマラソン)

下旬 鶴岡神社の博多おくんち(子供御輿が出る)

11月10~24日 大相撲九州場所

12月 福岡国際マラソン選手権大会

二〇〇二年度内

福岡・釜山共同観光客誘致事業

都市高速道路5号線 月限JCT完成

第5回アジア太平洋都市サミット開催(福岡市)

香椎パークボート・アイランドシティ

雁の巣道路暫定供用開始

福岡前原道路完成

昨秋から福岡都市高速・百道・福岡間がつながり、九州道・福岡都市高速・西九州自動車道が結ばれ、唐津が大変近くなった。

アジア太平洋都市サミットは福岡市が提唱して始まった環太平洋の国々の都市とのサミットで、隔年行われ、交通マネジメント、ゴミの処理処分、安全な水道水の供給、観光交流の拡大等を議題に話し合ってきた。12か国20数都市が参加している。サミットの翌年実務者会議が行われ、4年に一度は福岡でサミットが行われる。

仕事あ・れ・こ・れ

博多小学校の設計をして

工藤和美(昭和五十四年卒)



見学者の数が増える一方で、でも博多

高校を卒業して以来、ほとんど福岡へ帰ることのなかった私が、突然、建築家として福岡へ呼び出される事になりました。この四年ほど、東京・福岡の往復生活。おかげ様で、二十年ぶりの実家生活は、ご飯は食べたか！帰りが遅い！と両親に心配かける始末。十八歳で止まっていた両親と私の時計が突然動き出しました。何ともくすぐったい思いをしながら、親孝行と言い訳しつつ身の回りの世話を任せて大忙し。当時、福岡市役所は大変な騒ぎになっていました。市の中心部の人口減から、博多部の四小学校の統廃合を提唱したからです。山笠でご存知のあたりの、いまだに独立自治色が強く、行政の押し付けなど聞くものかといった空気。そのすさまじい反対は、開校までの間に新聞掲載が二〇〇回を越えた事にも伺えます。地元福岡では大変なニュースだったわけですが、東京にいる私にはそんなご事情は伝わらず、二本会でも講演させていただいた建築学会賞授賞作の千葉市立打瀬小学校の設計者と言う事で、声がかかったらしい。それは、行政が日本一の小学校を設計するからと、地域に約束したてまえ、それが可能な人を探そうとしたようです。選定にはさらにコンペを勝ち抜かなくてはなりませんでした。結果、火中の栗を拾いに行ったともいえる状況下、一触即発の現場へ突入する事になったらしいです。そもそも、逆境の中でこそあたらしい事は起きる



大変重要になっています。二十世紀の学校のあり方を根底から問い直したこの小学校の完成は、建築・教育の世界に留まらず、大きな影響を全国に与え、

小では様々な行事が楽しく練り広げられ、子供や地域の大人の笑顔が満ちています。私にとつては、完成まで山あり谷ありの大変な日々でしたが胸をなでおろす思いです。高校時代に運動会や文化祭で鍛えた、不眠不休の体力と気力に感謝しています。それにしても、母校の建て替えにはいつちよん手を貸したらねーと、厳しい先輩方のことは受け、手が出せなかった悔しさも半分、できあがった校舎を見せてもらい絶句でした。建築家の私の目には、新しい箱が置かれていた。そこから発する新しい時代の力や哲学や後世に残る文化といったものが、まったく伝わってきませんでした。母校がどうなってしまうのかと戸惑いを覚えるながらも、ふと目を向けると、後輩たちのまなざしは幸いにも昔と変わらず、凛々しく真剣でした。あとは、果立ってゆく館友を私も応援できるようにならなくてはと、逆に身の引き締まる思いがしました。

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

夕日を全身に受けて小走りに「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

「ただいまー」と元気いっぱい笑顔。沙希は小三の女の子。日課のお散歩というよりミニマラソンだ。飼犬シエリーも脇で息が上がっている。女の子はシエリーを散歩させてあげているつもりだが、飼犬は逆の思い。今日も沙希を運動させてあげていると自負心がある。一緒にのんびりして遅れるでもなく先を走る訳でもなく沙希のスピードに合わせて小走りになる。コースも決まりで心得ている。「ママ、今日はねーケンとチロに会ったよ」お散歩途中によく出会うお散歩仲間犬のこと「チロがもうすぐ赤ん坊になるよ」

会報版「私の履歴書」

宮川二氏(昭和十二年卒)



た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

手漉し高級画仙紙に関わったのは三十五年前です。当時紙漉きの槽が日本に僅か三〇〇位にまで減少し、近い将来画仙紙が足りなくなる、と推測されました。それでベトナム、カンボジア、ネパールなどで和紙作りをと思っ

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

た。産地も原貝の減少に伴いフィリピン、韓国、遼東半島、山東半島、ベトナムへと移動し、現在は山東半島に戻っています。

東京修猷会2002年度総会開催のご案内

2002年6月7日(金) 18:00より 大手町:経団連会館

テーマ:東京修猷会の魅力とは

なぜ東京でも修猷館は熱いのか、改めて問う!

学生さんも来んしゃい! 会費3,000円、新卒者は無料招待ばい!

幹事学年:Going会(ごーいん会)(昭和51年卒)

同窓生の車

「新しい社会福祉と理念」

社会福祉の基礎構造改革とは何か
中央法規 一八〇〇円
土肥隆一・阿部志郎・河幹夫共著

土肥氏は修猷三十三年卒で民主

主党代議士、阿部氏は社会福祉の現場に四十五年、河氏は厚生労働省のキャリア官僚。三人に共通するのは、クリスチャンであること。因みに土肥氏は修猷三年の時、運動会を抜け出したという。所謂「政治家本」ではなく、先般の社会福祉法の制定にそれぞれ異なる立場で関わった三人が、社会福祉の理念を縦糸とし、キリスト者としての思索をいわば横糸として、構成されたものである。土肥氏は東京神学大学大学院を修了後、社会福祉、教育、地域活動に従事し、一九八三年には、時代に先駆け、介護活動に係わる「神戸ライフケア協会」を設立している。（現在はNPOとして活動している）。土肥氏は「私が行政に批判的なのは、行政に内包



博多座…芸どころ博多の象徴

博多リバレインのイーストサイドにある劇場「博多座」は、芸どころ博多の演劇文化の振興と個性豊かな街づくりを目的に、市、経済界、演劇興行五社が協力し、歌舞伎やミュージカルなど多彩なジャンルの演劇を一月

までの議論は聞かない。また、文明論、宗教論も、信仰問題に触れる怖さからか、二十一世紀に向かう積極的議論も少ない。日本人は、全体として、どうも自分の信仰をまだまだ公にする人が少ないようだ。その意味で、クリスチャンであることを明らかにし、それぞれの立場から社会福祉を論じた本書は、勇気ある行動の結果であるとも言える。

「犬になれなかった裁判官」

を読んだ
小西 正利
(昭和二十六年卒)

安倍晴彦君は昭和二十七年卒の館友である。縁あって文芸部で中学から何年間か顔を突き合わせた。（六・三・三制実施で私

達の中高一貫教育を受けた）当時の安倍君は細面白哲の少年で、体力はなさそうだけれど俊秀の言葉がいかにピッタリであった。聞けば父君は福岡高裁長官、その頃私が憧れた天野貞祐氏や安倍能成氏を縁戚にもつハイソサエティの坊ちゃんだった。

私が辛うじて九大の門をくぐった年の夏、彼に出会うことがあった。「ベアさん、東大受けるんだって？受験勉強で大変だろうね」

「受験勉強なんて、あんな無駄なことはいません、毎日好きな本を読んですよ」そして文字通り悠々と合格してしまっ

た。再開したのは彼の定年退官後である。見違えるようにたくましくなっておられた。まず日焼けした顔と力強い口調に驚いた。過去のことは余り触れず、退官後スタートした弁護士生活のことが話題となった。

『日独弁護士物語』の自主上映会が私の住む日野市でも開催されたのはその日から何か月後だったろうか。何気なく新聞チラシに誘われて出掛けたのだが、思いがけずベアさんとまた逢えるチャンスとなった。出演者の一人でもあるベアさんは映画の中でも見事なシャープな語り口で観客に語りかけ、自信に満ち溢れていた。映画のあとの座談会でも静かな口調ながら司法改革を熱く語って聴衆の関心を惹きつけていた。成長したベアさんに感服した。

ベアさんから葉書が来た。自著の出版案内である。早速駅前の書店に出掛けたが書棚を見回しても見つからぬ。近くの図書館に立寄ってコンピュータで検索してみる。あった、中央図書館に入っている。但し貸出中でなお予約が七件入っているのは驚いた。これでは自分の番はまず半年先になる。書店に戻って取り寄せを頼んだ。

前置きが長くなったが、この本を是非一人でも多くの人に読んで欲しいと思う。裁判なんて関係ないやと考える人こそ読んで欲しい。

司法改革として法曹資格者増員がニュースにも取り上げられているが根本問題が違うのでは大抵入っていると思います。

ないか。裁判の遅れも緊急改善を要することの一つではあるが、司法権が国民のものとなることが最要なことだ。「人権と憲法を守る」このキーワードからスタートしなければ改革には意味がない。ベアさんの指摘はこの点で正鵠を射ている。この書には三十八年間の自分の体験を土台にして考え続けてきたことが見事に凝集され昇華されている。私達は、裁判官という人達は人格識見ともに優れて、その判決文には彼の全知能を駆使した結論が表現されていると思ってい

る。裁判官の判断に間違いはないという先人観である。だが本を読むとそれがいかに危ういことが判る。教科書で裁判官独立の原則とかを習ったが、裁判官は常に自由に判断出来るものではないようである。裁判官である前に公務員である裁判官は、いつも監督者である上司裁判官や最高裁事務局の意向を気にしながら判決文を書かざるを得ないようだ。

安倍君の論述を詳しく紹介したいが与えられたスペースがはやく尽きた。官僚裁判官となることに徹底して抵抗したその半生に、私は修猷健児の片鱗を見たのだが、皆さんはどうだろうか。是非一読をお薦めしたい。安倍晴彦著

「犬になれなかった裁判官」日本放送出版協会平成十三年五月刊書店店頭ではもう見られないと思いますが、注文すれば取寄せられます。また公立図書館には大抵入っていると思います。

「戦前と戦後の谷間での青春の日々」(我等が修猷館時代)野上芳彦著(昭三三・二四卒)



年卒)であるのと同時に、新制高校の最初(第一回・昭和二十四年卒)の卒業生で、その中間点、いわゆる中学三年生の時に敗戦を迎えた。

この困難な時期に四年間級長をし、三年間、生徒会長・自治委員長・議長などをしていたので、今の新制高校の基礎作りの部分に携わったこともあって、できる限りのことを書き残しておきたいと思うようになった。これがこの本を出版する動機となっている。
<http://www4.justnet.ne.jp/~yugami3018/syuyukan.html>

「アラスカ 垂直と水平の旅」栗秋正寿著(平成三年卒)山と溪谷社 一五〇〇円

アラスカのマッキンリーに世界で四人目に冬季単独登頂した栗秋正寿さんがその登山とその後のアラスカ半島を縦断する旅について記した初の著書。修猷館山岳部で登山の魅力に目覚め、さらに九州工大で登山を続け、準備をかさね一九九八年三月ついに冬のマッキンリーに登頂。ひとり孤獨な垂直の山旅に比べ、人々と交流し心通わせられる半島縦断一四〇〇kmのリヤカーを引いて歩く、水平の旅。その両方を追体験できる、二十五歳の「山の旅人」の本。

この本は私の九十五冊目の出版図書に当たるが、いわゆるパソコンで出版した本では最初の本となった。折角こここまで来たのだから、一〇〇冊の大会に乗せておきたいと願っているが、マラソンと一緒にそれはむしろこれからが正念場だと思っ

その本の中にも書いてあるように、私は旧制中学の最後の卒業生(第六〇回・昭和二十三年卒)であるの

と同時に、新制高校の最初(第一回・昭和二十四年卒)の卒業生で、その中間点、いわゆる中学三年生の時に敗戦を迎えた。アジア地域で初めて開催された大会には、史上最多の一三四カ国・地域から約二千五百名の選手・役員が参加し、観客数も約十五万人を記録しました。水泳界のスーパースターのイアン・ソープ選手(オーストラリア)の活躍もあり、世界新記録が八個をはじめ多くの大会記録や日本記録も誕生し、日本チームのシンクロナイズドスイミングをはじめ、競泳、飛込競技での大活躍も記憶に新しいことと存じます。この熱戦の様子は、福岡市の放送において、週間平均視聴率一位を記録するなど、その関心の高さを伺うことができました。福岡市では、スポーツを通じて市民の生きがいのある生活と健やかな心身を作り、活力のあるまちを目指すとともに、相互の交流によりふれあいの輪を広げて世界平和に貢献することを目的として、一九九五年に行われたユニバーシアード福岡大会を契機に「スポーツ都市宣言」を行い、これまでにさまざまな国際スポーツ大会を開催してまいりました。

このたびの大会では、国際水泳連盟、日本水泳連盟そしてテレビ朝日と密接な連携により準備作業を進め、世界で初めて大型展示場(マリンメッセ福岡)内に五〇m公認プールを特設するという新たな開催方法を提案し、参加する選手が快適な環境のもとで、日ごろの成果を十分に発揮できるよう円滑な運営に心血を注ぎました。関係者が一丸となって、事前の競技会場の整備や競技日程の調整に始まり、大会期間中には、世界から来福する選手団の宿泊や輸送、競技の運営、会場の警備、報道関係者への対応そして殺到する入場者の整理など日々山積する課題に取り組みました。そして、言葉や風俗習慣の違いを乗り越え、連日の猛暑の中、積極的な市民のボランティア活動に支えられて、盛況のうちに閉幕することができました。

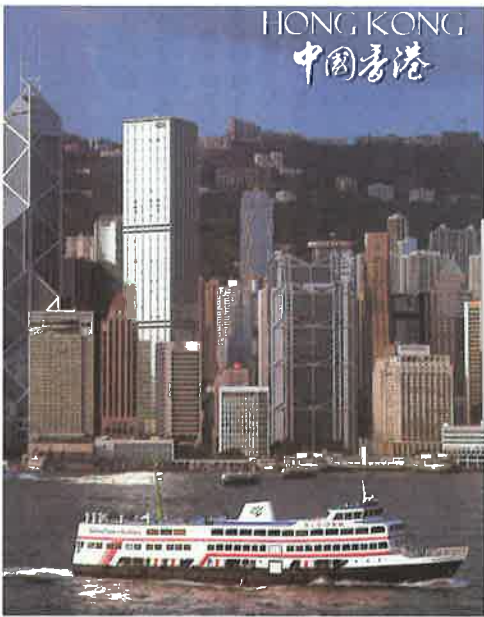
高校時代は、弓道部に所属していたといえ、水泳だけでなくおおよそスポーツ全般が不得手な私が、こうして大会運営の一翼を担うことができましたのも、ひとえにスポーツ界と経済界で幅広く活躍の諸先輩方による心温まるご協力とご支援の賜物と、この場を借りて厚くお礼申し上げます。今後とも、アジアに開かれた街づくりを目指す福岡市へ、熱いご声援をよろしくお願い申し上げます。

久木原 哲雄 (昭和四八年卒)

「アラスカ 垂直と水平の旅」栗秋正寿著(平成三年卒)山と溪谷社

「戦前と戦後の谷間での青春の日々」(我等が修猷館時代)野上芳彦著(昭三三・二四卒)

「犬になれなかった裁判官」安倍晴彦著



香港維感

中国返還その後

大矢高暉（昭和三十一年卒）

一九九七年七月一日に香港が中国に返還され中国の特別行政区になって四年余が過ぎた。この間どんな変化があったかとの質問をよく受ける。返還前は二国二制度は五十年間保証するとの中国の約束にも拘わらず言語、移動、企業経営上の自由など英国統治下で享受してきた様々な自由が束縛されるのではないかとその強い懸念を誰もが抱いていた。その証拠に英国系大企業が会社登記を香港外に移したり中産階級の大多数の香港人が英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど旧英連邦諸国のパスポート取得のため家族を移住させたり、企業も個人も資産の海外逃避を行なった。中国の共産革命やその後の文化大革命の苦い経験や知識からこの香港離れは当然のヘッジであった。返還後はこれらの懸念は全て吹き飛び中国の約束通り表面的には何も変わっていない。英国軍に代わって香港に駐屯している人民解放軍の姿を街で見かけることもない。行政面では英本国任命の総督に代わって香港人による選挙で選ばれた中国人の行政長官が最高責任者として香港の経営に当たっている。立法府も官庁組織も英国時代と同じと言つてよい。新聞論調も返還前と特に変わったこともなく言論統制が行なわれているように思えない。勿論、中国指導層を批判するような記事は見られず中国要人の来港を大きく取り上げたり中国本土への気配りは行間に伺える。行政長官は選挙立候補に際し北京政府の認知と後盾を得るのであるから当然中国の大きな枠組と利益の中で諸施策を遂行することになる。高級官僚の言動も同様である。中国が排斥している気功集団「法輪功」のデリーケートな取扱いがそのいい例であろう。香港が一国二制度の下で行政上の独立を保ちながらもこのような形で中国化は進んでいると言えなくもない。では返還後一番目につく変化は何かと考えれば、若年層の英語能力の低下であろう。返還の前後から母国に還ると言う民族的気質の高揚もあり英語教育時間を割いて母国語教育の重視策が取られるようになった。その結果若年層の英語力低下が

大きな問題として浮び上がったのである。国際都市としての香港のこれまでの繁栄は英国統治下で整備された法律、会計、社会制度などと共に英語能力に優れた人的資産が豊富であったからである。二十年前に筆者が銀行派遣員として香港に赴任して先ず驚いたのは、ローカル行員の英語力の高さだった。高卒レベルでも英語を駆使する実用的能力は日本の有名大学で英語を専攻した人達の一般的なレベルよりはるかに高いと思われた。近年当地新卒者の英語能力の低下が問題視され、産業界からの要請もあって政府も英語教育の重要性を改めて認識し、英語教育の時間を増やしている。さて、この四年間の香港経済はどうだったか。返還前は熱気に溢れ不動産価格、株価は暴騰し一攫千金を夢見る香港人の欲望はバブルとなって大きく膨らんだ。返還のお祭りの後はアジア経済危機も追い討ちをかけてバブルははじけその後退避に苦しんでいる人が多い。近時の個人破産件数の著しい増加が、今の世相を如実に物語っている。所で、中国の経済発展は実に目覚ましい。香港が中国への窓口としての優位性を今後も維持できるだろうか。懸案の中国のWTO加盟は年内にも実現の見通しである。それに伴い中国内の法律や諸制度も国際基準に添ったものに次第に進化して行くであろう。北京や上海など主要都市はもとより中国全体が外に向けて一層門戸開放を行ない外資もこれまでのように香港の窓口機能が必要となくなるであろう。香港が繁栄を続けるためには金融機能や従来からの利便性を更に高め、同時に華南経済圏のハブとして中国本土と一体化して行くことであり、そのための諸施策の実行が必要となってくるであろう。

修猷館高校からの報告

1 第二学年（全員）つくば・東京研修旅行（7/30〜8/2）

日本科学未来館。つくばと東京にある企業・研究所等から自分の興味のある所を選んで訪問。弁護士連合会、TV局、博覧堂、外務省、証券会社、最高裁、出版社、新聞社etc

またデイズニールゾート、帝劇、浅草商人体験、能楽堂等から選んで体験。上野地区研修。

2 第8回生徒海外派遣（二・三年生十二名）NYとワシントンDC（8/20〜28）

高校公式ホームページで「研修日記」を公開。活き活きとした報告で面白い。お勧め。

http://www.iity.edu/prefukuka.jp/SHUYUKANH/

3 クラブ活動・活躍記録

☆野球部 春季福岡市長杯 ベスト8

☆ラグビー部 花園出場をかけた東福岡と十一月十日対戦し24-14で惜敗（決勝戦）

☆サッカー部 全国高校サッカー選手権福岡県予選三回戦進出（二部昇格）

☆弓道部 インターハイ出場 女子団体 県大会優勝 全国ベスト32

☆女子個人戦 準決勝進出

☆ヨット部 国体少年女子FJ級ソロ優勝 林杯ヨットレースFJ級ソロ優勝

☆インターハイ全国大会 52位

☆水泳部 インターハイ出場

☆陸上部 インターハイ400mリレー準決勝進出 100mリレー準決勝進出

☆卓球部 福岡県ジュニア卓球大会 2年生の部優勝

☆書道部 個人 高文連全国大会文化連盟賞

☆新聞部 高文連全国大会年間紙面審査佳作賞

☆コーラス 全国高校総合文化祭合唱部門全国文化連盟賞

☆吹奏楽部 福岡吹奏楽コンクール 福岡支部予選 金賞

☆ESS部 福岡高校英語劇大会優勝

☆麻生スピーチコンテスト優秀賞

☆美術部 福岡県PTAシンボルマーク 優秀賞

☆文芸部 高文祭 詩部門 県代表（個人）

☆演劇部 「春一番」演劇フェスティバル」主催

☆ディベート同好会

第6回全国ディベート甲子園（読売新聞社主催）全国優勝

部員わずか9人のディベート同好会が全国優勝をした。決勝戦では東京ビッグサイト東京の女子聖学院高と激しい論戦を展開し、顧問の教諭のもと十通りの立論を用意した成果が実って勝利した。以下はそのインタビュー記事。

初次全国制覇！

ディベート同好会

全国大会はどんな様子でしたか？

今年のテーマは「道州制を日本に導入するか」でした。試合中は容赦ない攻撃をしようとして、対戦校に握手を拒否されたこともありました。試合後には仲良くなれました。全国の高校と、そして早稲田大学のディベーターの方とも話ができて、みなさんから刺激を受けました。

決勝戦のことについて詳しく聞かせて下さい。

OBの方や出場メンバー以外の部員の協力もあって、相手校のことを研究して挑みました。「相手に反論する隙を与えない論理の展開が素晴らしい」と審査員の方からお褒めの言葉をいただいたのは嬉しかったです。

これからの抱負をお願いします。

顧問の鹿野先生を中心に新しい分野にも積極的に挑戦していこうと考えています。そして目指すは二連覇です。

九州勢初の全国制覇を果たしたディベート同好会。これから増々活躍してくれることを期待したい

陸上部OB OBG会

東京の活動

四十三卒の福寺誠一先輩と「そろそろ皆と会いたくなったね」という気持ちで始めて、もう六年以上が経ちました。今では四十一年から五十九卒までの二十名程度になりました。この間に転動して東京を離れた人が五名になりましたが、年三回程度のOB OBG会の参加者は転動した人も参加してくれましてはほぼ十二、三名と安定しています。

陸上競技は個人主義の色が強いスポーツで高校時代はお互いライバルであり、仲良し集団ではなかったようでしたが、歳を重ねた今では皆んな他人を思い遣るほのほとしたOB OBG会になりました。年に三回もやっていますので、参加するのにも欠席するのにも簡単で気軽なものです。それでもほぼ皆勤賞が五、六名もなる事を考えますとよっぽど居心地がいいのでしょう。

この会の特徴が二つありまして、一つは必ずみんなの前で近況を話すること、二つ目は家で待つてくれる伴侶や子供のために土産があることです。更に、やはりスポーツをしていたので、屋外での遊びが好きな人が多く、昔鍛えた足腰のおかげでゴルフも盛んでこれも年二回以上やっています。

福岡を離れて東京で暮らしているの、時々故郷が恋しくなり修猷館の同窓生と会って、忘れかけた博多弁を時々織り交ぜて、若かりし頃トラックで汗を流した先輩後輩と打ち解けて語り合うことで故郷の温もりを感じています。そんな会ですのでは非一度参加してください。

「はじめての？」東京修猷会バスケットOB OBG会

修猷バスケット部は、創部七十五年を超える伝統ある部です。同期の皆さんは時々集まっておられるようですが、今回ひょっとしたら東京で初めて？の、有志のOB OBG会を開きました。陸上部がよく集まられていると聞き、6月の総会で出会った若手OGを中心に、昨年8月1日夜、銀座に8名のOB OBGが集まりました。

参加者は山崎修先（昭35卒）、出納克彦、西田潔次郎先輩（昭45卒）、中川美穂、深見つねこ、牧嶋知子の各先輩（昭61卒）、そして平成3年卒の伊藤洋子と私、深堀志乃の八名です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、八月四日（土）朝八・〇〇〜八・三〇フジテレビの番組「晴れたらいいね」にフジテレビアナの大坪千夏先輩（昭六〇卒）が出演し、あの古い体育館で同期の方とバスケットをするシーンが放送されるらしいと、本部のOB OBG会からメールがあり、その話を中心に、先輩後輩はほぼ三〇年の時空を超えて大いに盛りあがりました。また修猷には珍しく、女性五・男性三の比率が良かったのかもしれない。福岡のOB OBG会からは経費節減の意味合いもあり、夏からメールで情報を送られてきます。本日も皆さんのアドレスを知らせて欲しいと言う事です。shuyubsk@hotmail.comに、OB OBGの方はぜひ、近況をお知らせ下さい。幹事は昭四七年卒の川浪道範先輩です。バスケのOB OBGは、首都圏で一〇〇名以上いると伺っています。第二回目のOB OBG会は、年明けに開きたいと思っておりますので、一応幹事である、深堀志乃のアドレスshino-fukabori@laport.co.jpに連絡頂ければ幸いです。

柔道部OB会へおびす会

柔道部OBの昭二十七年卒清原慶三氏・和栗真次郎氏などを中心に柔道部OBや現役学生の親睦の場として平成十一年に発足しました。

柔道談義もさることながら、囲碁、将棋、絵画、書道、音楽、ゴルフ、登山、インターネットなど趣味研鑽の場として、又いろいろな情報の交換をしたり、後輩の育成をすることなどを主目的として続けています。柔道部OB OBG以外でも登録して受け入れています。

囲碁の部門では毎月第二金曜日午後一時から定例会を開いており、日本棋院の指導員である御厨和彦氏（昭二十七年卒）や高橋貞行氏（昭三〇卒）に習うことができます。アマチュア最強と言われる中、蘭氏卒業の熊本高校OBとの交流囲碁会を行ったこともあり、最近では親睦を目的としたゴルフ会や昭和四十六年卒の神田紅さんの講演を聞いたり、昭和三十四年卒のステンドグラス作家・渡辺百合世さんの話を聞くことなどもししています。会員の関係者に医師や弁護士が多いことから、医療や健康管理ほか生活一般について、会のホームページなどを通じて相談を受けたりしようとも考えています。こういうことをしたいと思うとそれが出来る起動力のある会のような気がします。JR恵比寿駅から徒歩で約一〇分の事務所は、二〇数人程度の会合にも使え、常時無料で提供していることから、時々他の館友OB会も利用しています。

部屋には谷 健太郎氏（昭二十八年 日展十五回入選）の大作も展示してあります。

場所：渋谷区恵比寿三二一七

電話：〇三三四四六四四八二 FAX：〇三三七九二一六二七

ホームページ：http://www.ebisuka.jp/

学年だより

修猷会二五会のこの二〇年

東京支部常任幹事 濱田 桂一

我々昭和二十五年卒業生は、昨年平成十二年に卒業五〇周年を迎えました。戦時下と終戦後の混乱に食料不足の所為で、修学旅行の経験がなかったため、(尤も、農家に泊り込みの稲刈り奉仕や海軍による海洋訓練合宿は経験しましたが)修学旅行に憧れのようなものがあり、卒業後の節目々々には修学旅行を実施しております。

三〇周年は資料館に母子像の台座を寄贈して除幕式に母校に集合し、同期生岡崎住職の千眼寺(福岡市藤崎)で物故者の慰霊祭と同窓会総会を行いました。時期をずらして六〇名の参加で、昭和五十七年六月に京都府副知事、荒巻君(現京都府知事二期目)のお世話で舞子さんを待らせて宴会、高岩先輩(現東映社長)の紹介で太秦映画村の見学など京洛の初夏を楽しむ旅行会。四〇周年は平成二年にやはり京都で総会を開催。記念の文集、戦時中の学徒動員や戦後の中高生生活の思い出を綴った「チンチン電車」を出版(市販もしました)。五〇周年は沖繩修学旅行で、平成十二年十二月十二日十二時に那覇空港に各地から五十三名



二〇〇一年 東京修猷会総会報告

沼 浩一郎 昭和五〇年卒

「この件は明日どうするのや?」 順調、と胸を張るまでは言えないものの、何とか総会直前まで、一通りの作業を終えていた。緊張して待っていた前日であった。スタッフの一人から電話連絡を受けた。当日受付の一部招待客の対応方法についての質問だった。はたと答えて詰まっていた。電話を切ると私はこの数日、毎回「これが最後の質問です」というフレーズをつづけてきた。日に二、三回はメールでやり取りしていた一学年先輩のIさんにメールを入れた。先輩、今更こんな質問をしてすみません。ダメな後輩を持ってたと思ってしまいます。悲壮なメールであった。待つ事、十五分。I先輩から返事が来た。

一通りのアドバイスの後、「...引継ぎ書でも記載していたので、すでに理解されていると思うていました。今更ながら引継ぎの難しさを痛感しています。僕の責任です。申し訳ない...」。何と言う素晴らしい先輩だろう。僕のミスと自分の責任の様に感じられてしまふとは。修猷館の伝統がここにも生きています。何としても明日の総会は成功しなければならぬ。

総会当日。天気は曇りのち晴れ。人の入りが期待される天候だ。あたふたとしながら準備が始まった。気になって上階と受け付け階を行ったり来たりしていた。そのうちに総会第一部が始まった。黙祷、会計報告、事業報告、次々と議事が進んでいく。順調だ。第二部企画が始まった。これも順調。様々な業界で活躍するOB達の横顔がうかがい知れた。藤吉新会長の今の時代にもっとも相応しいご提言、前川館長の前年同様の力強いスピーチが終わり、いよいよ懇親会。来場者が会場に流れついた。乾杯の音頭をもう待てないというくらい会場はすでに熱気につつまれ、懇親会は始まった。司会が順調に段取りをこなしていく。上手いな。誰か選んだのだろうか。人選の良さが今学年の特徴か。自画自賛をしている最中に会場担当から連絡が入った。「もう料理がこれで終わらしい。追加注文するか?」まだ締めまで三〇

分以上もある。しまった!昨年の余り気味だった事を予想して若干料理を減らしていたが、天候の良さに恵まれて、入場者が多い。若手が意外と多く食事のベイスが速い。お腹にたまる種類を追加注文した。その時、携帯が鳴った。山崎拓先輩の秘書からである。これから会場に向かうという事だった。出席可能との連絡は受けていたが、お忙しい方、半信半疑でお待ちしていた。入り口の前に会場はまたしても騒然。簡単にスピーチを頂いたあと、熱気は最高潮に達していった。成功だ!この時点で今年の総会の成功を確信した。最後のエール、年配のOBの方が、俺にやらせてくれ」といって壇上に上られた。最高のエールだった。こういって予期せぬハプニングが何にしろも場を盛り上げる。終了。とにかく終わった。そして2次会。あとは記憶にはない...。総会とは何かを思いつく、がむしろやってくる。一年間であった。新たな出会い、友人が各学年にもでき伝統が引き続く事、これが総会の意味なのではないだろうか。今は精一杯の感謝とこれからの後輩へ同じ感動を感じてもらいたい。修猷の誇りと伝統を守るためにまた時代は移りゆくのだろう。(詳しくはホームページを(覗きさい))

第九回修猷二木会 ゴルフコンペ報告

第九回二木会ゴルフコンペは、十月二十一日(日曜日)、ゴルフ日和の快晴に恵まれました。白鳳カントリーゴルフクラブにて、二十四名の参加をもちまして開催されました。

昭和三十六年卒の中川洋三先輩のご厚意により、開催の運びとなりましたこと、御礼申し上げます。

優勝は、この日、グロス88というベストスコアで回られた、昭和四十四年卒の今林定道先輩で、ネット68というアンダーパーでの見事な優勝でした。準優勝は、この度関西から転勤されて初参加となった、昭和四十二年卒の樋口裕幸先輩で、ネット64の幻の優勝スコアでしたが、初参加に優勝なし、という二木会の「アイアン」の掟により、準優勝となりました。来春の記念すべき第十回大会では、雪辱を期してください。



口は、第四回大会での、優勝+女性ベスグロに続く快挙となりました。昭和三十五年卒の、伊藤洋子先輩で、スコアは116でした。ちなみに、私、昭和四十九年卒の山下は、49+49=98という、「エージシュート」ならぬ、「グレンジュート・シュート」を密かに達成させていただきました。

今年の第十回大会は、四月十四日(日曜日)を予定しており、節目の大会ということで、盛大なコンペを企画しております。皆様、お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。(昭和四十九年卒 山下政比呂)

事務局だより

昨年六月、田代信吾前幹事長のあとを受けて幹事長に就任いたしました。会長、副会長を補佐しながら東京修猷会の円滑な運営を図っていくのが幹事長の務めですが、改めて当会の仕事の幅の広さ、奥行きに驚いています。

当会には副幹事長が十一人もいます。「なぜそんなに多くの副幹事長が必要なのか」とよく聞かれます。まさにそこが他に見えない東京修猷会の特徴とも言えるかも知れません。

今年も原則として毎月第二木曜日に「二木会」を開催します。当会の最大行事の一つなのですが、それを担当する副幹事長はさらに大勢の幹事学年の協力を得て、講師の選定と折衝、会場(学士会館)の予約や当日の出席者数の把握、食事の手配等々の仕事をこなします。

もう一つの大きな事業は六月の上旬の金曜日に行われる同窓会総会です。これも担当の副幹事長が責任者となって、一年前から担当学年と綿密な打合せを繰り返してまいります。新しい幹事学年が何を企画するのか、自由な発想にまかせますが、年二回常任幹事会を招集して、そのほかの報告とともに会全体の現況について明らかにしていきます。

重要な仕事はまだあります。名簿の管理です。六千人を超える会員の住所等は常に新しいものに更新して、二木会や総会の案内などの発送を続けていかなければなりません。専門の会社に業務委託していますが、案内が届かないなどミスやトラブルは相次ぎます。

会費の管理など会計もミスが許されない神経を使う仕事です。そしてこの会報の編集と発行。最近になって加わったのが東京修猷会のホームページの立ち上げです。比較的若い副幹事長を中心に、執行部以外の関心のある同窓生も加わってより良いものを目指しています。

「なぜ修猷館だけがボランティアに支えられてそんな活動ができるのか。実に多く寄せられる質問です。その答えを探すためにまたこの一年間、活動が続いていきたいと思います。ますますのご協力をお願いいたします。」

平成13年度 二木会		
於: 神田学士会館		
第481回	H13.1	柳 邦宏氏 (S49) 日立製作所 『デジタル衛星放送で変わるテレビ』
第482回	H13.2	山崎広太郎氏 (S35) 福岡市長 『日本列島を元気にする街』
第483回	H13.3	樋口 十啓氏 (S50) 帝人株式会社 『DNA鑑定』
第484回	H13.4	崎山 裕子氏 (S48) 早稲田大学学生部就職課長 『最近の就職事情』
第485回	H13.5	森部 和男氏 (S43) 東京信託銀行 『遺言と相続の実態』
第486回	H13.7	白根 邦男氏 (S30) スポーツニッポン社社長 『長嶋監督にみる21世紀のリーダー像』
第487回	H13.9	並木 徹氏 (S38) 電源開発株式会社取締役 『エネルギーと地球環境問題』
第488回	H13.10	土肥 隆一氏 (S33) 衆議院議員 『小泉・田中内閣の行方』
第489回	H13.11	鶴田 正人氏 (S50) 東芝EMI 『宇多田ヒカルとエンターテインメントビジネス』

幹事長	
渡辺 俊介	(昭三十八年卒)
副幹事長	
野原 宏	(昭三十八年卒)
遠山 精一	(昭三十八年卒)
柳町 精子	(昭四十三年卒)
広瀬 豊	(昭四十三年卒)
白井 信雄	(昭四十四年卒)
本田由起子	(昭四十四年卒)
福嶋 治	(昭四十七年卒)
高山 信彦	(昭四十八年卒)
堀 信之	(昭四十九年卒)
野中 哲昌	(昭五十年卒)
西村健志郎	(昭五十三年卒)

平成13年度寄付金

平成12年11月1日から平成13年10月31日までに198名の皆様から寄付金が納入されています。ありがとうございます。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬省略。卒年別。順不同)

また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、同封の郵便振替用紙にて早速ご送金くださるようお願い申し上げます。(1口3千円。3千円以上大歓迎。寄付扱いします)

00170-6-172892 東京修猷会事務局

鳥巢建之助(大14) 吉阪清次(昭3) 松尾金藏、大島毅一(昭4) 富田明德(昭9) 伊豆丸環、橋本 胖(昭11) 鎌田正行、篠崎春男、小山田隆(昭12) 高村健一郎、中村浩二(昭13) 寛 孝文(昭14) 隈部 洋、桑原敬一、高川正通、坂口信、大城金夫(昭15) 西山誠三、浜田悠紀雄(昭17) 鶴田一白、不破敬一郎(昭18) 早野俊一、大里隆徳、塚本 学、田尻重彦、毛利昂志、昭和19年卒一同(昭19) ジャニイ岩橋(昭20A)、山本敏男、中嶋駿一郎、田中庸夫、野上三男、榊田弘道(昭20B) 小洪雅亮、太田 昭、稗田孝道(昭21) 遠藤嘉津彦、岡崎 登、南雲 進、木下洋一、野村輝彦(昭22) 伊岐和男、井上洋一、荒谷俊治、大西 勇、中村邦也、田尻利重、田尻和彦、白木彬雄、八牧将勝、高岩 淡、月成 颯(昭23) 山本義治(昭25) 谷谷欣一、清水英範、石田洵一、大森康平、大平 修、中村道生、藤吉敏生、廣瀬貞雄、洲上貴之(昭26) 吉田 耕、金田久仁彦、柿喜美子、松村清次、都島惟男、和栗真次郎、田邊 萌、難波孝彦(昭27) 児玉黎子、真武保博、日戸 力、荻原 敬、柳島富男、鯛瀬国幸(昭28) 高木道子、佐藤英雄、村越 登、長尾淑實、長野偉士、高木正幸(昭29) 塩沢孝忠、瓦林聖児、岩田至道、喜多村寿信、久保 久、原田雅弘、坂本幸治、星野節子、川本英夫(昭30)、阿部公明、伊達直哉、丸山嘉宏、近藤 徹、高崎洋一、中山 悠、中村保夫、箱島信一(昭31) 鳥居健太、島上清明、平野熙幸、野間正己、林 克己(昭32) 河野 理、吉川 浩、古賀芳秋、佐竹儀治、寺澤美和子、松永貴子、青木 宏、長徳実義、香崎温子(昭33) 加藤 泰、菅原真也、行武賢一、讃井邦夫、西嶋勝彦、川辺猷治、服部富美子(昭34) 伊藤洋子、可児 晋、山崎 修、山田昌男、山田 拓、松本 光華、森 泰治、中山直幹、中村純男、田代信吾、北古賀義之(昭35) 横倉稔明、山本 博、重光 碩、中島成之、田中正夫、浜地康彦(昭36) 佐藤重敏、大須加頼彦(昭37) 井上 誠、玉井龍二、高木佳子、渋谷寿一、上田 茂、渡辺紀大、野原 宏(昭38) 高橋登世子、四郎丸聡、久保田康史(昭39) 森 秀則、河越保男(昭40) 三上博民、中川原章、淀川和也、林田 健、高木健二(昭41) 園田久子、溝上雅史、石川 透(昭42) 広瀬 豊、深見良晴(昭43) 横田勝介、辺見芳郎(昭44) 坂口健介、山口隆子、赤松康親(昭45) 戸井田和子(昭46) 高吉邦治、鹿毛徹太郎、大島宏樹、椿 康雄、木野茂徳(昭47) 稲田修一、高山信彦(昭48) 阿部啓次郎、井手富士雄、橋村秀喜、古森光一郎(昭49) 古賀隆太郎、高西淳夫(昭50) 安東泰隆、溝口 計、舟橋利周、小林 明、村山誠一、筒井康幸、油田 哲(昭51) 中原誠也(昭54) 遠藤功曉(昭57) 井出慶祐、深瀬勇太郎、前園克己(昭58) 木田真司(昭59) 朱雀啓史(昭60) 宮本拓海(昭61) 田尻公一(昭62) 小山将勝(平8)